

1. 評価結果概要表

作成日平成2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	3271700134		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホーム やすらぎ		
所在地	島根県大田市仁摩町仁万1028-1 (電話) 0854-88-2335		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟町43番地		
訪問調査日	平成20年1月25日	評価確定日	平成20年2月25日

【情報提供票より】(平成19年12月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	4人, 非常勤5人, 常勤換算4.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋 造り
	1階建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無○	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800円

(4) 利用者の概要(平成19年12月28日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	0	要介護2		1	
要介護3	7	要介護4		1	
要介護5	0	要支援2		0	
年齢	平均 88.2歳	最低	80歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大田市立病院・石東病院・須田医院・泉歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームが第二の我が家になってくれれば」という管理者の思いで利用者本位の個別ケアにつながる支援をしている。今年度、家族の強い要望で初めての看取り支援に取り組んだ。利用者に向き合った約四ヶ月間、百一歳の誕生日を目指しながら介護し、やすらかに見送ることができた。この経験を今後の介護支援の学びとしている。また毎身体操・レクリエーションを繰り返すことで、身体機能維持がはかられ、病後の利用者の動作が改善されている。利用者の満足を第一の目標としているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員会議の開催・介護計画の見直し・面会時間の延長・職員も同じ食事を食べるなどの課題に意欲的に取り組み改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で話し合い行動の振りかえりが出来た。利用者とのコミュニケーションのとり方の課題も上がってきた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	二ヶ月に1回開催している。行事・防災体制などについてホームから報告し、参加者からの意見、質問等がおもな内容である。看取りに付いての学びの報告もされ、家族・医師・事業所の協力が大切であることが確認された。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	本人が満足なら家族も満足してもらえと考え、面会後に必ず意見や希望を聞くようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	設立当初より自治会にも加入し、日常の挨拶や散歩時の見守り、野菜・花の差し入れもある。また運営推進会議の地域メンバーの方が、毎月事務室とリビングに「絵」を飾って頂く交流が始まった。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、地域のなかで安心して暮らせるグループホームが第二の我が家になってほしいと考え、ふれあい・想いあい・支えあいという理念を掲げ支援している。	○	地域密着型サービスとして、さらに「地域住民との交流の下で」ということを検討し明文化して頂きたい。利用案内などにも載せて頂きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員の採用時に理念を話している。理念は、リビングや事務室にやさしい書体で貼ってあり、職員も日々確認している。	○	重要事項説明書に利用者の権利について明文化して頂きたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、溝掃除や草刈りに参加している。中学生や高校生のボランティアを受け入れたり、近隣の方の野菜や花の差し入れ時には親しくお茶などの交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で外部評価について話しあい、自己評価は毎月の自己評価アンケートをもとにまとめた。前回の評価後、職員会議の開催や自己評価アンケートの実施など改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催しており、事業所の取り組みを報告している。盆に家族会をしたら参加しやすいなどの意見がだされ検討している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には、運営やサービスの課題解決にむけていろいろな意見を聞かせていただくよう要望している。	○	市担当者と地域の介護サービスの充実を共に推進する立場として協力を強めて頂きたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会の多い方は面会時に、遠方の方は電話で連絡している。家族の要望に応じて、メールやパソコンの写真を送付した例もある。	○	直接希望がない場合でも、家族は利用者の生活の様子がわかれば安心や喜びがある。定期的なお便りの発行を望みたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満が家族の苦情になると考え、面会が終わった後に意見を聞くようにしているが、今のところ苦情はない。	○	お盆等の帰省時に家族の集まりを開き、家族の様々な意見を引き出す計画が立てられているので、今後に期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ない。また採用時は、主任が一ヶ月付き添って指導することになっている。管理者や主な職員は、開設以来異動がないので馴染みの関係ができています。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市が行う研修などに希望参加している。また現場の主任が日々の場面で対応の仕方や分らない事をアドバイスし、職場会議では職員の自己評価アンケートを基に話し合いをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域のグループ部会に参加し交流がある。	○	地域の同業者との相互訪問や、職員同志の交流会なども企画して頂きたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は、利用者にとってホームが大切な生活の場となるので、本人や家族の思いを聞き納得して申し込みをしてほしいと考えており、相談に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が思い出を話し笑顔が見られるとうれしい。また利用者の丁寧な挨拶に感謝の表し方など学ぶことが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が何をしたいか関心をよせている。利用者の意向に沿って、毎月夫の命日に自宅外出の支援をしている人もいる。	○	介護相談員の受け入れが計画されているので、さらに利用者の思いや意向の把握に努めて頂きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の思いを大切にし、職員とも話し合い計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	前回の外部評価を受けて三ヶ月ごとのモニタリングを実施している。又、毎月職員の自己評価アンケートを基に気づきや変化を会議で話し合っている。	○	さらに、毎月の自己評価アンケートでの気づきを掘り出し、ケアの見直しにつなげていくよう期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	終末期に家族の希望があり看取りを行った。又家族がいけない場合の通院支援・特別な外出泊支援を行っている。	○	今後の介護情勢を考慮され、地域の要望を把握し、さらに柔軟な対応を検討してほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には恵まれている。いつでもどこでも対応して頂ける。地元の医師であり、毎月往診もおこなわれ信頼関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の約四ヶ月間をミキサー食や水分補給・二時間ごとの体位変換などの介護支援を実施し、達成感や学びを経験した。又家族の要望・医師とのかかわり・事業所の対応の協力が大切だと認識した。	○	この経験を基に「指針」としてまとめられるよう期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	経費に関する心配事等には別室で話し合い、プライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課を大切にしながら、個々のペースや状態に応じた対応もしている。遅い朝食や一人で散歩する方などの見守り、外泊や温泉行きなど家族と連携をとり行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一番力を入れている。美味しい味付けと野菜を多く摂れる事を配慮し、刺身やうなぎも取り入れ喜ばれる。利用者は野菜の皮むき・米ときなどをし、楽しみながら食事をしている。職員も同じものを食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏には、毎日の希望があれば入浴日以外はシャワーをしている。冬は週三回の入浴である。利用者に夜間の入浴など進めたが希望がなかった。希望に沿うようにする考えはある。	○	希望に沿う考えはあるので、今後も柔軟な対応を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その日の献立を白板に書く・新聞を取りに行く・花の水かえ・手すりのふき掃除・畑仕事など一人ひとりの役割がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に毎日出かけられる方もある。また他の事業所（さざんかの家）を訪問し交流している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関も日中は鍵を掛けていない。出かけられたときは見守りをする。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は1ヶ月に1回、マニュアル等で緊急時のイメージトレーニングをしている。夜間対応についても日頃から主任に聞き、対応できるよう努めている。近所にすぐ応援して頂ける協力者がある。	○	地域の方を交えた防災訓練に取り組みされるよう期待したい。また災害時の備蓄等も検討してほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事摂取状況は毎日記録している。糖尿病の主食カロリーも計って対応している。必要な方にはお粥も準備している。居室にお茶が飲めるようにしている方もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除がゆき届ききれいである。リビングには美味しそうな匂いがあり、民謡が静かにながれている。外の景色も遠く広がる心地よい環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口には家族の作られた板絵が飾られ、室内には筆筒や仏壇・写真等の好みの物が置かれている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。

